

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

里川

SATO GAWA

発行●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務局
住所●埼玉県所沢市弥生町2996-6 山口ビル1F TEL & FAX 042-994-3212
発行日●2000（平成12）年3月31日



柳瀬川流域の水循環を考えよう●
参加市民募集●
柳瀬川流域水循環市民懇談会

特集●新河岸川フォーラム2000 &
第4回 水循環MAPづくり
ワークショップ報告●
水循環MAPづくり
ワークショップ事務局

活動紹介●
「かっぱウォーク」が始まった●
東村山源流から東京湾を目指して

流域INFORMATION●
2000年4月

事務局から●



切絵 毛利将範

柳瀬川流域の水循環を考えよう

柳瀬川流域水循環市民懇談会

● 何が問題なの？

新河岸川流域では近年、急激な都市化により、“水”の流れる経路・水量・水質が変わってきています。この結果、洪水が増える一方で、普段の川の水量が少なくなったり、水が汚くなったりと、いろいろな問題が出てきています。

あなたの周りにもいろいろな問題点があるかもしれません。

● 参加市民募集！

● 柳瀬川流域水循環市民懇談会は 何をするの？

都市化によって歪みの生じてきた新河岸川流域の水循環を望ましい姿にするための解決策を流域全体で、考え、作っていくのが、新河岸川流域水循環マスタープランです。まず最初に新河岸川流域の支川流域である柳瀬川流域を取り上げることとしました。流域の水循環をよくするためには、行政だけでなく、市民を含めた様々な立場の人々が協力し合っていくことが必要です。そこで、柳瀬川流域の市民のみなさんから、積極的に意見を求める場の一つとして柳瀬川流域水循環市民懇談会を設置し、参加者を募集することとしました。（募集要項詳細は2ページに掲載）

～柳瀬川流域の水循環を考えよう～

柳瀬川流域水循環市民懇談会 参加市民募集！

私たちの生活を支える水循環を
よくしていこうという方の
たくさんの応募をお待ちしています。

募集要項

応募資格 柳瀬川流域の水循環に関心のある人・1ヶ月から2ヶ月に一回程度の平日夜に参加できる人

応募方法 所定の応募用紙に必要事項をご記入の上、住所、氏名、職業、年齢、連絡先電話番号とともに柳瀬川流域マスタープラン事務局まで応募して下さい。
また、インターネットから申し込むこともできます。
<http://www.am.or.jp>をご覧ください。

応募用紙 建設省河川下流工事事務局調査課/埼玉県土木部河川課、新河川流域総合治水事務所/東京都建設局河川部計画課、流域下水道本部技術計画課、都市計画局施設計画部施設計画課、環境保全局水質保全部計画調整課/所沢市道路部河川治水課/志木市都市整備部土木課/新座市建設部道路整備課/富士見市建設部土木課/三芳町下水道課/東村山市都市整備部道路課/東大和市建設部管理課/清瀬市建設部管理課/武蔵村山市建設部都市計画課

締め切り 2000年4月28日(金)必着
※参加する際の交通費等は、自己負担をお願いいたします。
※応募者多数の場合は、制限を設ける事もあります。

応募先・問い合わせ

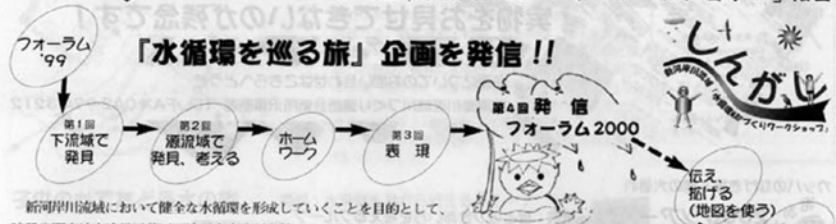
建設省荒川下流工事事務局 調査課 柳瀬川流域水循環マスタープラン事務局

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1

TEL (03) 3902-3220/FAX (03) 3902-2346



新河川流域「水循環MAPづくりワークショップ」事務局
新河川フォーラム2000 &
第4回「水循環MAPづくりワークショップ」報告



新河川流域において健全な水循環を形成していくことを目的として、建設省関東地方建設局河川下流工事事務局主催により昨年9月から行われてきた「水循環MAPづくりワークショップ」の第4回(最終回)が去る2月19日(土) 本川越ペパホールアトラスにて行われました。これまでのワークショップには流域市民を中心に約70名が参加してきましたが、第4回は「新河川フォーラム2000」として約40名が新たに加わりました。

これまでのワークショップの成果として、テーマごとに流域を巡る「水循環を巡る旅」企画を発表しました。この成果をもとに参加者がこれからの水循環について一層考え、今後の課題を活用しながらその大切さを流域に伝えていくことを確認しました。

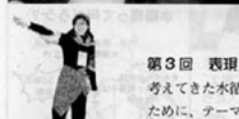
第1回 下流域で発見

下流域を歩き、新河川を船(Eボート)で下り、様々な発見をしました。



第2回 源流域で発見、考える

源流域を歩き、発見したことをもとに水循環についてとことん話し合い、水循環を考えるための「6つの水の交」と「7つのテーマ」をみつけました。



第3回 表現

考えてきた水循環の大切さをさらに多くの流域の人に伝えていくために、テーマごとに水循環の抱える課題点や水循環を考える上で大切な場所などを地図に表現しました。地図上、環境学習や地域での活用をねらい、「水循環を巡る旅」企画としてまとめました。



フォーラム2000 & 第4回ワークショップ 発信

「水循環を巡る旅」企画をもとにワークショップ参加者が、フォーラム2000の新しい参加者に水循環の大切さを伝えました。そして、流域市民、教育関係者、行政関係者など様々な立場の参加者があらためて「水循環とは？」をテーマに意見交換を行いました。



最後に「水循環を巡る旅」を活かしながら参加者全員が伝え手となってさらに流域に広めていこうと、熱く宣言をしました。



そして.....



「水循環を巡る旅」企画を発信！

実物をお見せできないのが残念です！

企画についてのお問い合わせはこちらへどうぞ
新河岸川流域川つくり連絡会新所沢事務局 TEL/FAX 042-994-3212

カッパのなげき編と蘭の大暴れ

2000 ツアー 提供：量とのかきあい方を考えるグループ

川の原点である降水量の多少を視察し、ヘリコプターで日照り時に水のやりくりを訪ねる超遠征コースと、スズメになって、道を歩きながら大雨であふれそうになる川を心配するコースをご用意しました。

行政関係者が多かったため、洪水や治水による被害は、実情に照らし合わせているのではないかと、この議題がスタート。そして都市の構造、人為的な水の調整、大雨時の情報提供など人と水とのつきあいを「治水」「利水」の観点で整理しました。

自然とうまくつきあひながら、被害を少なくすること、水の確保や排水の仕方、人工の水の使い方・・・これらを、もう一度考える事の重要性を確認しました。



イモ舟に乗りませんガ・・・

水土の旅 提供：水循環から農土を考えるグループ

水循環の復活は、ヒト、モノ、文化・価値の循環につながる。船に乗り、流域の「むかし」と「いま」を体験しながら水循環の大切さを考える過船プロジェクトです。新河岸川に舟運を復活させましょう。

「水」のことだけを考えても、現代における水の抱える問題を解決できない。新河岸川流域の生活「風土」に根付いた水循環を経済、産業、様々な立派な人たちに呼びかけ、循環型の地域社会の再生に向けて、過船プロジェクトという旅（ツアー）を実行し水循環の大切さを伝え、仲間を揃え、水循環の回復を目指すところまで総は展開しました。



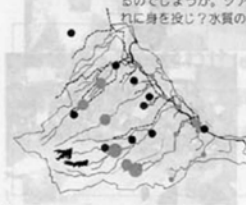
水質って何だ？生きるガ、死ぬガ・・・

ガ・サバイバル ツアー 提供：水循環のフオリティを考えるグループ

私たちは簡単に「とりあえず水に流そう」と言いますが、流されたモノは、一体どこを通りどこに流れているのでしょうか。ツアーでは、普段見られない水の流るに身を投じて水質の変化を身をもって体験します。

「水質」を一般の人が一目で解るよう表現するには迫り心が欲しいと、「植物・生物・子ども・バックテスト」など様々な指標を考えてみました。

「水循環」については、「健康・元氣・清潔」などのイメージや、楽しく水循環の回復に関わりたという発想、また現代の水循環に関わる問題として、行政と市民、上流から下流に至る川の流れ、行政の組織、家庭内、国・都道府県・市町村、学校・地域といった様々な関係が断ち切れていないのか？それらのソフトとハードのシステムづくりが大切ではないかと話も展開しました。



家で工夫すれば川もきれいになる？

わが家の水をめぐる旅 提供：暮らしの中の水循環を考えるグループ

暮らしの中の水の旅。私たちにできる健全な水循環へのアプローチ。一番身近なところから、旅をはじめませんか。

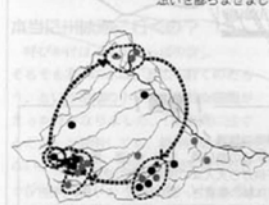
身近な水循環について考えました。各家庭での排水の処理方法、雨水浸透・利用、中水利用、地下水利用の方法や制度づくり。そして子供たちへの環境教育と家庭への普及、植林による地下水の確保、都市部における水道（地下水）の確保など様々な意見が飛び交いました。特に「地下に水を戻す」「遠くから水を持ってきていいの？」「酸性雨」「水道（みずみち）マップづくり」の4つに問題を絞り、フォーラム参加者全員へ問いかけました。



子供の心でとどる水の旅 提供：水循環を景から考えるグループ

水に慣れて、水に遊ぶ・・・そうしたくなるように「水の旅」を体験することで、水に対する想いを膨らませましょう。

魅力的な「水辺の景」を求め、まずは水に触れることから水について考えようという「子供の心でとどる水の旅」の企画に端を発し、環境学習の必要性、現状の川（水路）の整備状況、行政・市民・学校などのネットワークの重要性など話題は広がり、みんなの気持ちと行動により未来を明るくしたいという思いが膨らみました。まずは現在の水の状況（状態）を把握し、近くとも見ることから大切・・・その水に触れ、そこから水の事をみんなが真剣に考えるようにしたいという事になりました。



人に見えない川がある
農には見える川もある

足でみる、気球でみる旅 提供：自分には見えない水の旅を考えるグループ

私たち人間が目にする水はほんの一部、でも、ひょっとすると他の生きものには見えているのかも・・・鳥になって空から三富新田を訪れ、人と自然の歴史を通して水の循環を巡ります。

「見えない水」には「物理的に見えない水（地下の水脈など）」と、「意識すれば見える水（雨やトイレの水など）」の2つがあります。今の水循環を考える時、まず大切なことは「水を見ようとする意識」を改めて持つ事です。身近で水循環を支えている源泉の一つの「人と植物が創り上げてきた水循環」に立ち返って考える事を提案。そして「健全な水循環」とはどんな「水が流しければいい」という問題ではないとの結論。そのためにまず第一歩として「気球で三富新田を見よう！」



森あり、生き物あり、人あり

元氣になりたいあなただけの旅 提供：元氣な自然と水循環を考えるグループ

元氣な水があれば、生きもの（人間も）が元氣になれる。だから遊漁の森・雑木林・谷戸・湧き・川は「あるがままに、もともとあったように」残していかなきゃ。三富の元氣は農家や元氣な源流域の森を訪ねたり・・・元氣になれる5つのコースを用意しています。

メンバーの関心は「森」にあり、元氣の素は「森」。森を守り、森をつくるのが「水」の元氣の素であるという事から以下の3つの意識をします。

！新河岸川流域に「小さな森」をつくるため、可能な場所を見つけアザチやハシロギを植える。

・100年後をイメージして「ミニシアマの森」プロジェクトを開始。

！「森」を元氣にする為の「市民活動システムとプログラム」をつくる。



みんなで考えたいこと

1. 水を地下にもどす！！

2. 遠くから水を持ってきていいの？

3. NO.1 NO.2 NO.3 NO.4

4. 水道（みずみち）マップづくり（地下水）

みんなで考えたいこと

The ストリップ

水循環劇場

水はどこから、どこへ、どうやって流れているのか？自然の水循環と、人工の水循環を比較しながら、水循環の大切さを考えてみよう。

みんなで考えたいこと

人と植物が創り上げてきた水循環意識した時に見え始める水

水質を一緒に測ってみよう

みんなで考えたいこと

・新河岸川に森を小さな公園地を利用したら？ミニシアマを植える

・100年後をイメージ（ビジョン）を描いて森や川を少す

・悠久の森のための植樹ツアー（ハシロギ、アザチ）

・森を元氣にする市民活動で実現する

各グループから出された「みんなで考えたいこと」をもとに、さらに全員で話し合い、最後にひとりひとりが「私から伝えたいこと」を書き、発表しました。



～私たちが伝えたいこと～



このように、ひとりひとりの思いがカードにあふれています。ワークショップは今回で終了しますが、この思いを、次のステップにぜひ活かしていきましょう！

See you again !!



活動紹介.....「かっぱウォーク」が始まった！

東村山の源流から東京湾を目指して80km



西暦2000年の1年間をかけて、東村山市多摩川の近く北川の源流から、はるばる東京湾の河口を目指して川沿いを歩いて下る「かっぱウォーク」が始まりました。全行程は約80km。源流の北川から御瀬川、新河岸川を経て最後は荒川へと下っていきます。

本当に川は海に行くの？

呼びかけは「北川かっぱの会」。
そもそも北川の水は、どこへ行くのだろ
う、という地域の小学生の素朴な疑問が
きっかけとなりました。「東京湾に注ぐ
んだよ」と説明しても、最初は信じられ
ない子どもたち。でも、地図を指でたど
っていくうちに「本当に海に行くんだ」
と目が輝きます。「では、皆で行こうで
はないか」と話が盛り上がりしました。

北川は、多摩川の雄木林の中にあり昭和
初期に「かっぱ伝説」を残す「たっち
やん池」に源を発します。そして所沢市
久米で御瀬川に合流し、東京都と所沢市
の境界を流れて新河岸川に注ぎます。

流れているのは同じ水でも川は名前を
変え、そこで活動する市民グループの顔
ぶれもさまざまです。実はこの企画は、
水の流れをたどりながら、新しい「川な
かま」に出会う旅でもあります。約
10kmごとに行程を区切り、各地域ごと

にその地域の活動メンバーが持ち受けて
合流しガイド役を担うといった方式で、
同じ川でありながら今まで知らなかった
川の表情や、流域の問題に出会うこと
になります。当たり前のことながら「川は
つながっている」のです。そして、足の
疲れを癒しながら、地域の美味しいもの
やお酒にも出会って、川談義に花が咲け
ば仲間がどんどん増えていく、といった
もくろみ。各流域の団体に声をかけなが
ら、海にたどり着く頃には、何百人の仲
間になっているかと、今から夢がふくら
みます。

つながる川なガマ

第1回目は、1月15日に北川かっぱの
会のメンバーが「たっちやん池」を出発。
北川から御瀬川の清瀬金山公園までを14
名で歩きました。途中、汚水が流れ込ん
でいたり、コイが放流されている場所な

どがあったものの、源の森やいり河津林
や河原が残っていたこと、何よりカワセ
ミの姿を5回も発見できたことが大きな
収穫でした。ゴールした金山公園で御瀬
川流域川づくり市民懇談会の清瀬プロ
ダクションと合流し、彼らのガイドで
金山公園付近の河川改修の実態を見学し
ました。

3月11日、続く第2回目は金山公園から
御瀬川川沿いに新河岸川の合流地点まで
歩き、今回小学生4名を含む26人が
参加しました。清瀬下水処理場から流れ
込む大量の処理水の白い泡にびっくりし
たり、色々な種類のカモや野鳥に出会っ
たり、今も残っている昔の泡盛原を利用
した広大な水田に見とれたり体験は
ふくみず。ゴールした志木いろは親水
公園では「エコシティ志木」の仲間を
加え、河原のヨモギ団子を肴に話が盛り
上がりしました。

今後、流域の学校や市民グループに呼
びかけながら、来年1月までに5回のウ
ォークを計画しています。陽明川では船
下りをするよ、
という話もあ
って下町情緒が
あふれそう。記録
は映像に残し
て、ぜひ映画の
制作もしたいと
スタッフは意欲
満々です。



次回予定 ● 第3回かっぱウォーク

日時 5月27日(土) 午前10時～午後3時
志木いろは親水公園から新河岸川沿いに
西葛島までの約8km
集合 志木市役所前の「いろは親水公園」10時
(または東村山駅改札口8時50分)
参加費 200円(保険料込)
●子どもの参加大歓迎●参加者にはウォークラリースタ
ンブカードを渡す●東京湾まで歩いた人にはプレゼントも！

問い合わせ「北川かっぱの会」

Tel (042) 567-3346

今後の予定

7月8日(土)	赤羽まで	約8km
9月9日(土)	まぢや・日暮里まで	約12km
11月11日(土)	南千住・向国まで	約12km
1月7日	荒川まで	約12km

● 流域 INFORMATION ●

旧河岸街道のものの流れをたどる

新河岸川流域水循環 MAP づくりワークショップ

「風土」グループ主催ツアー

三芳町→旧河岸街道→新河岸川まで歩きまわります。

船問屋を見学後、新河岸川堤にてお花見！

日時 2000年4月9日（日）午前10時 集合

集合 東武東上線新河岸駅改札口

持物 弁当・飲み物

※参加自由

問合せ：ECOM（エコ・コミュニケーションセンター）森

Tel. (03) 5982-8081 / Fax. (03) 5982-8249

流域 INFORMATION をお寄せください

シンポジウムやコンサート、交流会の開催、刊行物の配布・頒布など新河岸川流域の方々に広く知らせたい情報を募集しています。日時・場所・問合せ先など必要な情報を、郵送または FAX にて新所沢事務所までお送りください。

〒359-0043 所沢市弥生町2996-6 山口ビル1F

Tel. & Fax. (042) 994-3212 新所沢事務所

■三雷を知る ■主催 武蔵野に学ぶ会

■三雷ファーマーズカレッジ

三百年の歴史ある三雷の稲穂農業を、四季を通して実体験してみよう
第1回「雑木林の観察と里芋の植え付け」2000年4月29日（土）
年間 6回程度 / 年会費 6000円

問合せ・申込み：関谷 豊 Tel. (042) 942-3332

■雑木林コンサート in 三雷 コクリナ演奏：黒坂 正文

日時 2000年5月5日（金）午後1時 開場/1時30分 開演

会場 所沢市下富付近の雑木林 ※雨天 7日（日）に振替え

参加費 500円 問合せ・申込み：横山 達 Tel. (042) 943-0529

第2回 黒目川改修計画策定委員会（傍聴可）

埼玉県新河岸川総合治水事務所主催で、住民参加型の本格的川づくり委員会が始まりました。東武東上線から黒目川までの17kmの河川改修をどのように行うのか、計画をつくります。委員長の建設省土木研究所河川環境研究室長の島谷幸弘氏をはじめ、自治会、市民団体、市議会、学校及び行政担当者25名で構成されています。第2回より傍聴が可能となりました。

日時 2000年4月26日（水）午後1時30分～

集合 浦和土木事務所御殿支所（御殿市産業文化センター隣り）

内容 黒目川の現地見学会

問合せ：小林 一己 Tel. (048) 476-4262

● 事務局から ●

99年度のこの一年、新河岸川流域では各地域の市民らによる多彩な活動はもちろん、建設省主催の新河岸川流域フェア、水循環MAPづくりワークショップ等々が開催され、にぎやかな場になってきました。

記念すべき2000年の今年、流域の健全な水循環をめざそうと「水循環マスタープラン」づくりも本格的に始動します。また、水循環MAPづくりワークショップの成果として製作予定の「水循環MAP」を手に入れた生徒と先生が、友人同士やカブクル、あるいは健康増進にと、多くの方々から体験ツアーで流域のあちらこちらを歩きまわり、新しい出会いがうまれたら素敵ですね。

ワークショップのまとめのついでに、断ち切れたのは「水循環」ではなく、人間社会の地域、学校、家庭等々のさまざまなつながりではなかったのか、との問いかけがありました。新所沢事務所は、5月（予定）の正式なオープンに向けていま整備中ですが、人と人とのつながりや出会いを大切にしたい。望ましい新河岸川の流域像をつくりあげていくための「流域の拠点」として、多くの方々に活用していただきたい「場」なのです…。

今年度、新河岸川流域川づくり連絡会では、流域を巡るフィールドワーク、市民参加による川づくり学習、水循環マスタープラン検討作業等への主体的取組みを連携しながらはじめていく予定です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

のぞいてください・利用してください

● 新所沢事務所をよろしく!! ●

新河岸川流域川づくり連絡会は、今年度から新所沢に事務所を移しました。西武新宿線新所沢駅東口から歩いて約4分ほど、「バイン通り」に面したビルの1階で20坪以上の広さ。事務作業のほかにも、会議やちょっとした企画展示のできるスペースです。新河岸川流域の「川」や「水」に関わる情報を、どなたでも、いつでも必要な時に知ることができるように、今後、設備や情報をどんどん充実させていきます。どうぞご利用ください。

新しい事務所の名称（愛称）を募集しています。親しみやすいニックネームを考えて、事務所までFAXか郵送で、お名前・ご住所・連絡先を明記の上お送りください!!

